

大曲皮膚科ニュース

2006年8月21日号

带状疱疹の予防・治療法とは？

★子供の頃のみずぼうそうウイルスが再活動★

子どもの頃によくかかる病気の一つが水ぼうそう（水痘）です。これはウイルス性の病気で、一度発症して治ってしまうと一生感染しません。ところが、そのときのウイルス（水痘带状疱疹ウイルス）は死んでしまったのではなく、長い間身体の中の神経の付け根に潜んでいたのです。このウイルスが、病気や、疲れたとき、加齢などにより免疫力が減ったときに、再び活動を始めることがあります。これが带状疱疹（たいじょうほうしん）です。水ぼうそうは90%以上の人がかかり、水ぼうそうにかかった人の、10-20%に、带状疱疹が発症します。



带状疱疹は神経の通っている部分に、それも身体の左右どちらかに帯のように水ぶくれが集まるように出現することが特徴です。はじめはピリピリチクチクした痛みから始まり、しばらくするとその部分が赤くなり、やがて水ぶくれになって神経痛のような激しい痛みを伴います。

胸から背中に最も多く、顔面の場合は、失明や顔面神経麻痺をともなうこともあるので特に注意が必要です。痛みが始まってから水ぶくれが治るまでの間は、通常約3週間～1ヵ月です。痛みは水ぶくれが治る頃に消えますが、治った後も長期間にわたってしつこく痛むことがあります。これは「带状疱疹後神経痛」と呼ばれ、高齢者に多いものです。带状疱疹後神経痛にまで進行する前に、できるだけ早く皮膚科を受診しましょう。

★体の抵抗力が落ちた時が要注意★

带状疱疹は加齢、病気、疲労、ストレスなどで身体の抵抗力が落ち、おとなしかったウイルスが活動し始めることで起こります。日ごろから栄養と



睡眠を充分にとり、適度に運動を行うなど、心身の健康に気を配り体力を低下させないことが大切です。

イラストは日本医師会ホームページより

★出来るだけ早く治療をしましょう★

帯状疱疹後神経痛は、ウイルスによって神経が破壊されることが原因と考えられており、皮疹が出現してから神経がまだ破壊されていない3日以内に抗ウイルス剤で治療を開始した場合は、神経痛が残ることが少ないことが分かっています。抗ウイルス剤は、普通はバルトレックス®内服が有効で、癌や AIDS などの免疫機能の低下した方には、入院してゾピラックス®点滴を行います。また、痛みに対する対症療法として、いたみどめ（消炎鎮痛剤）の飲み薬・坐薬や、ペインクリニックで神経ブロックを行うことがあります。

疲れやストレスなどで抵抗力が落ちている証拠なので、発症した場合も、無理をせず、栄養と睡眠を充分にとることが大切です。痛みが残ってしまった時には、既にウイルスは活動していないので、抗ウイルス剤は効かず、決め手になる治療がなく、頑固な痛みが続きますので、初期の受診を薦めます。

★帯状疱疹はワクチンで予防可能に！★

任意接種ですが、水ぼうそう予防のためのワクチン（水痘弱毒化生ワクチン）のことをご存知でしょうか？ 水ぼうそうワクチンは大変有効で、接種した方の中で、水ぼうそうにかかる頻度は10-20%と少なく、発症しても多くは軽症で済みます。その内の数%の方々には、その後帯状疱疹が発症します。一方、ワクチンがよく効いて水ぼうそうを予防できた方々は、水ぼうそうになってしまった方々よりも、帯状疱疹になる方が圧倒的に少ないことが分かっていました。

最近アメリカで、60歳以上の方々に対して、水ぼうそうワクチンの接種により、帯状疱疹の予防が可能であることが統計学的に実証されました

のでご紹介します。ワクチンを打ったあとの带状疱疹の発生率が、打っていない方々に比較して51%減り、带状疱疹後の残存痛の発生率は、同様に、67%減りました。

水痘ワクチンの高齢者への接種は日本では2004年より承認されており、带状疱疹や罹患後の残存痛に対する有効な予防手段になりました。特に、50歳代に带状疱疹の患者さんの数のピークがあること、また、残存痛は加齢と共に増加して、例えば80歳代では1割の方に痛みが残るとされますので、50歳以上の方々には、皆さんにワクチン接種が推奨されます。健康人では、副反応はまれで、その殆どが接種皮膚に限局しており、安全性も高いです。当院でも接種可能ですので、お気軽に御相談下さい。



大曲皮膚科 住所：〒061-1272 北広島市大曲末広1丁目2-1（セリオ1F） 電話：011-376-2000
記：院長 梅津 修